

沖縄の米軍属による凶悪犯罪容疑事件に断固抗議する（談話）

2016年5月20日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

昨日、沖縄県うるま市の女性が行方不明になっている事件に関わって、元米海兵隊員の軍属の男性が遺体遺棄容疑で逮捕された。

またしても引き起こされた痛ましく、許しがたい事件に満身の怒りをこめて強く抗議する。

沖縄での米軍関係者による殺人、レイプなどの凶悪犯罪は、日本に施政権が返還された 1972 年以降、明らかになったものだけで約 6000 件と報告されている。これは、氷山の一角ともいわれており、沖縄県民は基地があるが故の犯罪の恐怖に脅かされ続けている。

このような状況の中で、普天間基地の「移設」と称して辺野古に新基地を建設し、基地の永久化をはかることは断じて許されない。普天間基地をはじめとする米軍基地の撤去を強く求める。

また、日本側の捜査・裁判権を不当に制約し、米軍犯罪多発の要因となっている日米地位協定をただちに改定することを強く要求する。

私たちは、日米両政府に対し、沖縄県民の生命と人権を保障するため、県民に真摯に向き合い、抜本的措置を講じるよう、強く求めるものである。

以上